



大好きなことを仕事にしよう

ノーベル物理学賞受賞者
カリフォルニア大学 サンタバーバラ校材料物性工学科教授

中村 修二さん

2014年にノーベル物理学賞を受賞。カリフォルニア大学教授、ベンチャー会社の経営、講演会などで、ご活躍中の中村修二さん。
そんな中村修二さんに、故郷への思い、今後の夢についてお聞きしました。



2014年にノーベル物理学賞を受賞されましたが、受賞前と後で、実生活に何か変化はありましたか？

受 賞後、多数の講演依頼が来っていますが、都合で断っています。このため受賞前後で大きな変化はありません。

青色発光ダイオードの研究に
とりかかったきっかけは？

以 前いた会社に入社して開発課所属になりました。そこで当時やっていたのは、従来からある赤色発光ダイオード用の材料の精製をやっていました。それらの論文を読んでみると、「発光ダイオードは、青色が無いのが最大の課題で、青色が

できると非常に大きな市場がある」と書いていました。それで徐々に青色発光ダイオードの研究がしたくなりました。入社してから、よく上司と冗談で青色発光ダイオードの研究をしませんかと言っていました。

しかし、田舎の小さな、予算も無い、頭脳も無いところで出来るとは思わずあきらめていました。入社して9年後の1988年に、過去10年間の研究業績が認められず、頭にきて、破れかぶれで、「青色発光ダイオードの研究をやらしてくれ」と社長に直訴すると、すべしOKが出て、研究をするようになりました。

ご出身地の伊方町や大洲市で過ごされた頃の思い出をお願いします。

伊 方町大久では小学一年生まで、海、山でいっぱい遊んだ楽しい思い出がたくさんあります。特に、海では砂浜で遊んだり、釣りをよくしていた記憶があります。また週末には、親戚、友人皆で磯に貝や魚を採りに行ったのを覚えています。山では、よくターザンごっこみたいな事をしていました。今でも、一番行きたい場所は大久です。理由は楽しい記憶しかないからです。大洲市では、小学3〜6年生ぐらいにかけて、友人二人と、週末に近くの富士山、神南山等の山を道が無いくところを選んで、「探検じゃ探検じゃ」と、登った記憶があります。また、小学生の頃は、近所の子どもといつも遅くまで、缶けり、かくれんぼ等をしていました。中学、高校

はクラブのバレーボールに明け暮れていました。高校ではそれに加えて受験勉強がありました。

中学・高校と部活動を通じて得られたものはありますか？

中 学、高校では6年間バレーボールをやってきました。いつもチームは弱く、試合で勝った記憶がありません。それでも練習は厳しくスパルタ式の練習でした。うさぎ飛び、腕立て伏せ何回、マラソン何キロとかそういう練習でした。中学での学校の目標が「根性」の時代でした。私は、あまりスポーツができるような体力ではなかったのですが、6年間やってこれたのは、負けず嫌いの性格から来ていると思います。2歳上の兄貴、1歳年下の



弟、4歳上の姉の環境で、男3兄弟は小さい頃から喧嘩ばかりしており、真ん中の私は、負けず嫌いに育ちました。

6年間バレーボールをやってきた、体力がそれほどなく、試合で勝つための練習がありません。それでも練習は、毎日、夜遅くまでし、朝は、早朝練習がありました。練習は非常にハードでした。それでも試合には一度も勝ってませんでした。

社会に出るからは、苦労があるときは、必ずこのバレーボールをしてきたことを思い出します。「あれだけ苦労しても試合には一度も勝てなかった。これだけの苦労は無い、だから今の苦労はたいしたことかな

い」と。バレーボールの苦労は、社会での凄い自信に繋がっています。

数学や物理が好きになったきっかけは何ですか？

子

どもの頃に自然に触れることで探求心が芽生え、科学に興味を持つようになりました。一人でよく海を眺めながら「この海はどこまでつながっているのだろうか?」「夕焼けはなぜきれいな赤色なんだろうか?」「魚はなぜ海の中で生きていけるのだろうか?」などと考えていました。

著書の中に「大好きなことを仕事にしよう」とありますが、好きなことを続けるコツがあれば教えてください。

好

きなことは、好きだからいつまでも続けられると思います。途中であきらめるといふことは、それは好きではないということだと思います。好きなことをみつけることは、それは大変なことです。また好きなことは、年とともに変わってきたりもします。このため、好きなことは変わって良いのです。年代とともに、好きなことは変わったりしますので、年代とともに、仕事を変えることはすばらしいことです。

人生で最も影響を受けた人や、大切にしている言葉などはありますか？

盛

者必衰。人生は常に、山あり谷ありです。自分の場合は、約5年置きに、人生の山(頂点)に立ちます。その間の2〜3年間はどん底です。そのどん底の時に、「なにくそー」と頑張り、5年間周期で這い上がってきます。

つまり、人生のピーク時にいるときは、次はどん底が待っています。どん底の次は、人生のピークが待っています。

今後の活動予定や夢をお願いします。

今

後の活動予定は何も変わっていません。カリフォルニア大学教授として頑張って、研究、教育に励んでいきます。またベンチャー会社も二つやっているの、そちらでも頑張りたいと思います。

西伊予の子どもたちにメッセージをお願いします。

海

や山の豊かな自然の中で遊びのびと遊び、勉強してください。豊かな自然と接し、観察することで、科学への興味が湧いてくると思います。

また海外へ行けるチャンスがあれば、ぜひ5年ぐらい海外に住んで日本を観察してください。日本への考え方や人生観がガラリと変わります。そういう体験をして、将来、日本あるいは西伊予に帰り、自ら企業を目指して頑張ってください。世界中の情報はインターネットで集められることを考えれば、豊かな自然が多い西伊予は、研究・開発型のベンチャーに向いていると思います。美しい自然をアピールし、研究・開発型のベンチャーを誘致することで、若者が定住できる場がどんどん広がっていくと最高ですね。

中村 修二さん



昭和29(1954)年5月22日、伊方町大久生まれ。

日垂化学工業(徳島県阿南市)在籍時の平成5(1993)年に高輝度青色発光ダイオードの発明、製品化に成功。平成26(2014)年、赤崎勇名城大学終身教授、天野浩名古屋大学教授と共同でノーベル物理学賞を受賞。